

2019/7/12 Vol.223 編集(金田)



## インプラント治療の現在(2)



(Vol.222 の続き)その際には、骨幅や歯槽骨の高さに準じてインプラントの太さ(直径)や長さ(埋入深度)を決定して、インプラント埋入部位の位置や深さや角度を事前に設計してその通りに狂いの無い所に埋入しなければなりません。例えて言うならば、橋を架ける橋脚を川底や谷底の地面に計画して立てる時のようなものでしょう。立てる位置や埋め込む長さや橋脚が斜めに方向が狂って真上を向いていなければ、橋脚の上に橋梁が乗らなくなり、橋は完成しなくなります。更にお口の中は狭くて暗い場所ですから、お口を大きく長時間開いていただけないと、インプラントを角度的に狂いの無いように埋入することは難しいこととなります。これは、奥歯になるほど難しくなります。

以前言われていたように、抜歯してから何ヵ月も待っていると、場合によっては抜歯した歯根周囲の骨は薄い部分はどんどん吸収、無くなり、埋入深度が長いものが得られなくなります。インプラント治療の成功のためには、いろいろと必要な条件がありますが、その中でも、より長く、より太いインプラントを入れるほうが成功しやすいと言われております。

しかし、現実にはなかなか理想的な条件でのインプラント治療はありません。そこで、抜歯したら出来るだけ周辺骨が吸収する前にインプラントを入れるようにして骨の吸収を防ごうという考え方が生まれたのです。この考え方は今でも賛否両論ありますが、世界の流れは段々この方向に向きつつあります。

更にインプラントの手術をしてからインプラント本体が骨と十分に結合(統合)するまでには、基本的には上顎骨で4ヵ月・下顎骨では3ヵ月くらいかかるといわれており、その間はインプラントには力がかからないように安静にしておいた方が良いと言うのが一般的です。しかし、この考え方以外に何本かインプラントを入れたら、連結して固定が得られた場合は、柱を立てて仮歯まで入れて食事が出来るように機能回復してしまう方法も行われています。さらに今は、単独でのインプラント植立では、インプラント埋入時に即日で仮歯まで入れる(即時加重)ことは、禁忌とされていますが、それも最新の勉強会では、可能にしてしまう方法論を実践している研究会(およそ10年位前から)の先生方がいらっしゃいます。

日進月歩の進化の過程にある現在のインプラント治療は、約40年前の時代からは、思ってもいなかった治療の時代へと入ってきているのです。(つづく) 院長



# 海水浴で

## 気をつけること

担当：平澤



海の状況は時間ごとに変化します。海に走って飛び込むのはやめましょう。

高波、高潮に注意  
一見、穏やかな波に見えてもいつ高波が襲ってくるか分からないので注意が必要です。



ビールやお酒を飲んで海に入るのは絶対にやめましょう。

お酒を飲んだら海には入らない  
お酒を飲んで気が大きくなった状態だと無茶な行動をしがちですし、水難事故につながり可能性大です。



炎天下の海岸では、水分をしっかりと取り、日焼けには十分注意しましょう。

紫外線にも気を付けよう  
「パラソル」「日焼け止め」「日傘」といったものはきちんと用意しておきましょう。



食後や睡眠不足のときは、すぐに泳ぐのをやめて、しっかり休養を取ってから泳ぎましょう。

こまめに休憩をとる  
子どもは「しんどさ」よりも「楽しいこと」を優先しがちなので親がしっかりと休憩をとらせてあげることがあります。牛乳に水分補給は欠かせずに行きましょう。

ここに挙げた以外にも、海水浴には危険がいっぱいあります。楽しい思い出づくりのためにも海の危険、注意事項をしっかりと理解していただければと思います。

今年の夏がみなさんにとって最高の夏となりますように。

